

檜柏

〔松屋筆記 九十四〕白身ビヤクシンの木

武州金澤瀬戸明神に、白身ビヤクシンの木あまたあり、そのさま枯木のごとく、皮もなく、白骨などのごとくにて並立てり。

〔佐渡志 五物産〕柏〇中

ビヤクシンハ、國ナカト云アタリニアリ、通雅ニ所謂刺柏ナルベシ、八幡村邊ニ生籬ニスルモノハ、ハビヤクシンニテ、漢名矮檜ト云モノニヤ、

〔書言字考節用集 六生植〕圓柏イソキ 枯同並見見ニ

〔和漢三才圖會 八十二〕檜柏 俗云以不木。

本綱、松檜相半者檜柏也。

按檜柏樹其葉細密、遠望之與栢ビヤクシン無別、但葉柔刺不尖硬、有繩文而如栢及檜葉之文、不結實、高一

二丈植之庭園可愛、其木不宜爲材、相州鎌倉之產業最美。

〔新撰字鏡 本〕檜同諸貞反、楊類、加波也、奈支、又牟呂乃木、

〔書言字考節用集 六生植〕松トモノキ楊トモノキ其時珍云、其材如松、身如楊、故云爾、檜同俗用此字謬、河柳也。

〔萬葉集 三挽歌〕天平二年庚午冬十二月、大宰帥大伴卿向京上道之時、作歌五首、

吾妹ウイモ子コ之ガ見ミ師シ鞆トモノ浦ウラ之ノ天アマ木キ香カ樹ツ者ノ常トコ世ヨ有アル跡ト見ミ之ノ人ヒト曾ソノ奈ナ吉キ、

〔萬葉集 十六有由緣并雜歌〕詠玉タマ掃ハク鎌カ天アマ水ミ香カ粟ム歌タメ

玉タマ掃ハク荊ハク來カ鎌カ麻マ呂ロ室ム乃ノ樹ツ與ト粟ム本ホ可カ吉キ將ハ掃ハ爲タメ、

〔夫木和歌抄 二十九〕六帖題むろ

まほのみつうらに年ふるむろの木のかはらぬ色もまたばちりつゝ、

衣笠内大臣

〔和漢三才圖會 八十二〕檜音 檜和名 姫檜俗比女 呂〇中略

檉